

資源ツインαファンド (通貨選択型) マネープールコース

第8期運用報告書 (全体版) (決算日 2019年1月25日)

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券	
信託期間	2015年5月8日から2021年7月26日まで	
運用方針	安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。	
主要運用対象	ベビーファンド	「T & D マネープールマザーファンド」を主要投資対象とします。
	マザーファンド	わが国の国債および公社債ならびに短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	ベビーファンド	株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時(年2回、1月および7月の各25日、休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。 分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。	

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
さて、「資源ツインαファンド(通貨選択型)マネープールコース」は、2019年1月25日に第8期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

T&Dアセットマネジメント株式会社
〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先
投信営業部 03-6722-4810
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)
<http://www.tdasset.co.jp/>

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			債組入比率	債券率	債先物比率	純資産額
	(分配落)	税金 分配 み金	騰落 率				
	円	円	%	%	%	百万円	
4期 (2017年1月25日)	9,938	0	△0.0	—	—	0.09	
5期 (2017年7月25日)	9,936	0	△0.0	—	—	0.1	
6期 (2018年1月25日)	9,932	0	△0.0	—	—	0.1	
7期 (2018年7月25日)	9,930	0	△0.0	—	—	0.1	
8期 (2019年1月25日)	9,927	0	△0.0	—	—	0.1	

(注) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、組入比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		債組入比率	債券率	債先物比率
	騰落率	騰落率			
期首 (前期末) 2018年7月25日	円	%	%	%	%
	9,930	—	—	—	—
7月末	9,930	0.0	—	—	—
8月末	9,929	△0.0	—	—	—
9月末	9,928	△0.0	—	—	—
10月末	9,928	△0.0	—	—	—
11月末	9,927	△0.0	—	—	—
12月末	9,927	△0.0	—	—	—
期末 2019年1月25日	9,927	△0.0	—	—	—

(注) 基準価額は1万円当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。

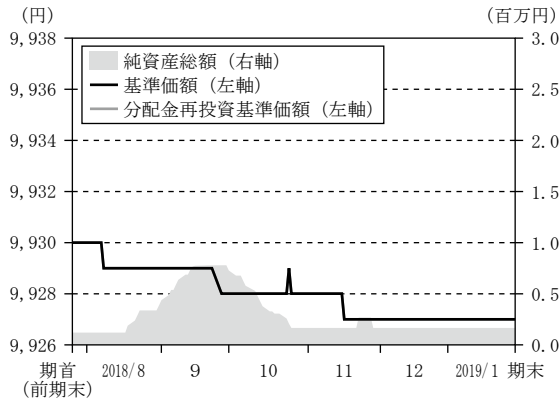
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、組入比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



第8期首：9,930円

第8期末：9,927円 (既払分配金 0円)

騰落率：△0.0% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2018年7月25日) の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、主にコールローンおよび「T&D マネープールマザーファンド」へ投資した結果、マザーファンドの基準価額変動の影響から、小幅に下落しました。

■ 組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
T&Dマネープールマザーファンド	△0.0%

■ 投資環境

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の△0.16%から期末は△0.21%となりました。期中においては、需給悪化懸念や日銀の国庫短期証券買入オペ動向を巡る不透明感などが金利上昇要因となり、海外勢による需要や担保需要の高まりなどが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

期を通じて、「T&Dマネープールマザーファンド」を概ね高位に組入れ、残りの資産につきましてはコールローン等で運用を行いました。

【T&Dマネープールマザーファンド】

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

■ 分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は、分配対象収益がないため、見送らせていただきました。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

「T&Dマネープールマザーファンド」を主要投資対象として運用を行います。

【T&Dマネープールマザーファンド】

足許における比較的堅調な国内外の景気動向などを背景に、日本のインフレ率は上向いていくと予想しますが、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細（2018年7月26日から2019年1月25日まで）

費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2018/7/26～2019/1/25		
	金額	比率	
平均基準価額	9,928円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬	0円	0.001%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(0)	(0.000)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(0)	(0.000)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(0)	(0.000)	運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.002	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（その他）	(0)	(0.002)	その他は、金銭信託に係る手数料
合計	0	0.003	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

売買および取引の状況 (2018年7月26日から2019年1月25日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
T & D マネープールマザーファンド	千口 639	千円 650	千口 590	千円 600

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2018年7月26日から2019年1月25日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

自社による当ファンドの設定・解約状況 (2018年7月26日から2019年1月25日まで)

期首残高 (元本)	当期設定元本	当期解約元本	期末残高 (元本)	取 引 の 理 由
千円 100	千円 —	千円 —	千円 100	当初設定時における取得

(注) 単位未満は切捨て。

組入資産の明細 (2019年1月25日現在)

親投資信託残高

種 類	期首 (前期末)		当 期 末	
	口 数	金 額	口 数	評 価 額
T & D マネープールマザーファンド	千口 107	千円 107	千口 156	千円 158

(注) T & D マネープールマザーファンド合計の受益権口数は648,704千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2019年1月25日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
T & D マネープールマザーファンド	千円 158	% 95.7
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	7	4.3
投 資 信 託 財 産 総 額	165	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年1月25日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	165,900円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	7,178
T&Dマネープールマザーファンド(評価額)	158,722
(B) 純 資 産 総 額(A)	165,900
元 本	167,128
次 期 繰 越 損 益 金	△ 1,228
(C) 受 益 権 総 口 数	167,128口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(B/C)	9,927円

- (注) 期首元本額 121,428円
 期中追加設定元本額 762,593円
 期中一部解約元本額 716,893円
- (注) 元本の欠損
 当期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は1,228円です。
- (注) 1口当たり純資産額は0.9927円です。

分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)および費用控除後の有価証券売買等損益(0円)より、分配対象収益は0円(1万口当たり0円)となりましたので、当期の分配は見送らせていただきました。

損益の状況

当期 自2018年7月26日 至2019年1月25日

項 目	当 期
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 28円
売 買 益	29
売 買 損	△ 57
(B) 当 期 損 益 金(A)	△ 28
(C) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 11
(D) 追 加 信 託 差 損 益 金	△1,189
(配 当 等 相 当 額)	(△ 603)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 586)
(E) 合 計(B+C+D)	△1,228
(F) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(E+F)	△1,228
追 加 信 託 差 損 益 金	△1,189
(配 当 等 相 当 額)	(△ 603)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 586)
繰 越 損 益 金	△ 39

- (注) 損益の状況の中で
 (A) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
 (D) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳 (単位:円・%、1万口当たり・税引前)

項目	当期
	2018年7月26日 ～2019年1月25日
当期分配金	0
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	0

- (注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

補足情報

T & D マネープールマザーファンドの主要な売買銘柄

当期における売買はありません。

T & D マネープールマザーファンドの組入資産の明細

当期末における組入れはありません。

T & D マネープールマザーファンド

運用報告書（全体版） 第28期（決算日 2018年12月10日）
（計算期間 2018年6月12日から2018年12月10日）

「T & D マネープールマザーファンド」は、2018年12月10日に第28期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目指して運用を行います。
主要運用対象	わが国の公社債および短期金融商品等を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率	純資産総額
	円	騰 落 中 率 %					
24期（2016年12月12日）	10,179	△0.0	—	—	—	—	百万円 768
25期（2017年6月12日）	10,176	△0.0	—	—	—	—	840
26期（2017年12月11日）	10,172	△0.0	—	—	—	—	747
27期（2018年6月11日）	10,169	△0.0	—	—	—	—	717
28期（2018年12月10日）	10,165	△0.0	—	—	—	—	701

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 円	騰 落 率	債券組入比率 %	債券先物比率 %
		%		
期首 (前期末) 2018年6月11日	10,169	—	—	—
6月末	10,168	△0.0	—	—
7月末	10,168	△0.0	—	—
8月末	10,167	△0.0	—	—
9月末	10,166	△0.0	—	—
10月末	10,166	△0.0	—	—
11月末	10,165	△0.0	—	—
期 末 2018年12月10日	10,165	△0.0	—	—

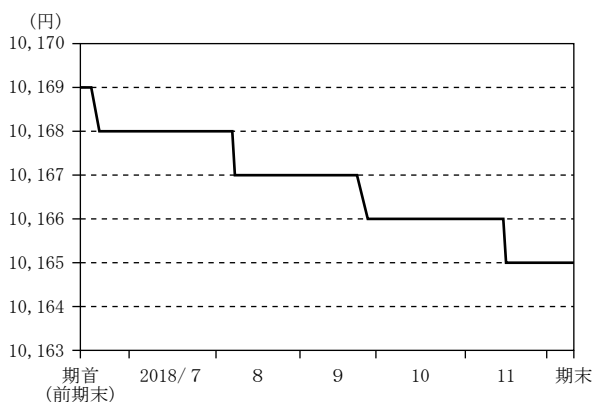
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の変動要因

基準価額は、期首の10,169円からスタートし、期末は10,165円となりました。運用対象であるコールローン等の利回りがマイナスで推移したことから、下落となりました。

■ 投資環境

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の△0.13%から期末は△0.23%となりました。期中においては、需給悪化懸念や日銀の国庫短期証券買入オペ動向を巡る不透明感などが金利上昇要因となり、海外勢による需要や担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

足許における比較的堅調な国内外の景気動向などを背景に、日本のインフレ率は上向いていくと予想しますが、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2018年6月12日から2018年12月10日まで)

費用の明細

項目	当期	
	2018/6/12~2018/12/10	
	金額	比率
平均基準価額	10,166円	
その他費用 (その他)	0円 (0)	0.001% (0.001)
合計	0	0.001

(注) その他費用のその他は、金銭信託に係る手数料です。

売買および取引の状況 (2018年6月12日から2018年12月10日まで)

当期における売買はありません。

利害関係人との取引状況等 (2018年6月12日から2018年12月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2018年12月10日現在)

当期末における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2018年12月10日現在)

項目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 701,969	100.0 %
投資信託財産総額	701,969	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	701,969,063円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	701,969,063
(B) 負 債	1,471
未 払 利 息	1,471
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	701,967,592
元 本	690,573,313
次 期 繰 越 損 益 金	11,394,279
(D) 受 益 権 総 口 数	690,573,313口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	10,165円

(注) 期首元本額 705,799,804円
 期中追加設定元本額 800,635円
 期中一部解約元本額 16,027,126円

(注) 1口当たり純資産額は1,0165円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳
 T & D インド中小型株ファンド 69,040,591円
 米国リート・プレミアムファンド (毎月分配型) 円ヘッジ・コース 3,385,141円
 米国リート・プレミアムファンド (毎月分配型) 通貨プレミアム・コース 20,016,360円
 米国リート・プレミアムファンド (年2回決算型) マネーボール・コース 88,475円
 豪州高配当株ツインαファンド (毎月分配型) 35,780,990円
 野村エマージング債券投信 (円コース) 毎月分配型 33,903,179円
 野村エマージング債券投信 (円コース) 年2回決算型 5,675,163円
 野村エマージング債券投信 (米ドルコース) 毎月分配型 6,884,550円
 野村エマージング債券投信 (米ドルコース) 年2回決算型 1,424,313円
 野村エマージング債券投信 (豪ドルコース) 毎月分配型 38,989,580円
 野村エマージング債券投信 (豪ドルコース) 年2回決算型 2,636,170円
 野村エマージング債券投信 (ブラジルリアルコース) 毎月分配型 311,359,888円
 野村エマージング債券投信 (ブラジルリアルコース) 年2回決算型 9,735,828円
 野村エマージング債券投信 (南アフリカランドコース) 毎月分配型 1,413,489円
 野村エマージング債券投信 (南アフリカランドコース) 年2回決算型 131,726円
 野村エマージング債券投信 (カナダドルコース) 毎月分配型 1,825,877円
 野村エマージング債券投信 (カナダドルコース) 年2回決算型 308,202円
 野村エマージング債券投信 (メキシコペソコース) 毎月分配型 55,801,321円
 野村エマージング債券投信 (メキシコペソコース) 年2回決算型 11,872,046円
 野村エマージング債券投信 (トルコリラコース) 毎月分配型 33,235,413円
 野村エマージング債券投信 (トルコリラコース) 年2回決算型 4,042,047円
 野村エマージング債券投信 (金コース) 毎月分配型 20,422,125円
 野村エマージング債券投信 (金コース) 年2回決算型 8,783,712円
 野村エマージング債券投信 (マネーボールファンド) 年2回決算型 1,483,807円
 資源ツインαファンド (通貨選択型) ブラジルリアルコース 4,910,145円
 資源ツインαファンド (通貨選択型) トルコリラコース 883,826円
 資源ツインαファンド (通貨選択型) 米ドルコース 6,383,188円
 資源ツインαファンド (通貨選択型) マネーボールコース 156,161円

損益の状況

当期 自2018年6月12日 至2018年12月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 246,364円
支 払 利 息	△ 246,364
(B) そ の 他 費 用	△ 6,034
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	△ 252,398
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	11,900,186
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	13,365
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 266,874
(G) 合 計 (C + D + E + F)	11,394,279
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	11,394,279

(注) 損益の状況の中で

(E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(F) 解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。